

総合的な学習の時間を中核とした教育課程にわたる探究的な学習
の充実 甲斐旭・岩下嘉邦先生(熊本大学教育学部附属中学校)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

校長及び研究主任からの挨拶

学校長挨拶

校長 松島 孝司

時下、皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育研究に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本校では、「主体性の育成」を教育目標に掲げ、生徒・教職員・保護者・関係者が一体となって教育活動に取り組んでおります。各教科において、自己調整力や対話力の育成を図るとともに、その力が探究活動や特別活動に結実することを目指しております。近年では、生徒が学校生活の様々な場面で主体的に企画・実践する姿が増え、着実な変化を感じているところです。

本研究発表会では、授業公開や「年ルディ」のセッションを通して、理論と実践を往復しながら、教育のあり方を共に考える場とさせていただきます。生徒の学びや教職員の取り組みをご賞いただき、多様なご意見を賜りましたら幸いです。

なお、今回は久しぶりの土曜開催となります。多くの皆様のご来校をのよりお待ちしております。

研究主題について

研究主任 甲斐 旭

本校では、「自他の幸福のために、自ら探究し、行動する生徒」の育成を目指し、「学びを発揮する授業」の創造に取り組んでまいりました。今年度は、総合的な学習の時間を中核とした探究的な学習の充実を通して、自ら問いを見だし、対話を通して最善解を探究しようとする生徒の姿の実現を目指しています。

そのような生徒を育てるためには、未知なる状況や正解のない問いに向かいながら、見方・考え方を自在に働かせ、これまでに培った資質・能力を発揮することが必要です。そこで各教科の授業では、自己調整サイクルにおける学びの質の向上と、暗中型対話モデルの活用を手立てとして、学びを発揮する授業と、それに至る見据えた授業の充実を重点を当て、研究を進めています。

研究発表会では、分科会を通して皆様と対話を重ね、研究のさらなる深化を図ってまいります。

申し込みから当日の参加まで

下のQRコードを読み込み、PassMarket（パスマーケット）上で必要事項を入力してください。参加費についてもPassMarket上で申し込みをお願いいたします。（手数料は参加者負担となります。）

参加費（対面） 一般：1,000円 学生：500円

申し込みはこちらから



※いただいた個人情報は、本研究発表会の運営以外には使用いたしません。

※準備の都合上、10月31日（金）までにお申し込みください。

※駐車場は九州森林管理局に準拠しておりますが、数に限りがございます。申し訳ありませんが、乗り合わせや公共交通機関のご利用等、ご協力をお願いいたします。

※当日の資料は、お申し込み時にご入力いただくメールアドレスにリンクを送付いたします。当日の配付はございませんのでご了承ください。

※お弁当の注文をご希望される場合は、PassMarketより申し込みをお願いいたします。

オンデマンド配信について

公開授業後、11月中にYouTubeにて授業のオンデマンド動画を配信いたします。

また、Zoomによる教科会を実施いたします。（12月に実施予定）

ともに、準備ができ次第、メールにてお知らせいたします。

オンデマンド配信のみを希望される方もQRコードから申し込みをお願いいたします。

【会場までのアクセス】



問い合わせ

熊本大学教育学部附属中学校
〒860-0081 熊本県中央区京町本丁5-12
TEL:096-355-0375 FAX:096-355-0379
担当:主幹教諭 富永 誠太郎
URL:https://www.kumamoto-fuchu.ed.jp
E-mail:tominogo@educ.kumamoto-u.ac.jp

令和7年度 熊本大学教育学部附属中学校 研究発表会案内（第2次）

研究主題

自他の幸福のために、
自ら探究し、行動する生徒の育成

～総合的な学習の時間を中核とした探究的な学習の充実を通して～



講演

+

講師の先生方と
本校生徒による
パネルディスカッション



溝上慎一先生
熊本県立人権啓蒙推進事業
推進委員兼校長



苫野一徳先生
熊本大学准教授



前田康裕先生
熊本大学准教授

1.期日：令和7年11月8日（土） 8:30～16:30

2.会場：熊本大学教育学部附属中学校

（対面での開催、後日オンデマンド配信及びzoomでの教科会）

主催：熊本大学教育学部附属中学校

後援：熊本県教育委員会

熊本大学教育学部情報教育研究会

熊本大学教育学部附属中学校同窓会

熊本県教育委員会

熊本大学教育学部同窓会

熊本大学教育学部附属中学校教育後援会

11/8（土）

熊本大学教育学部附属中学校 研究発表会

（対談）

- ・溝上慎一
- ・苫野一徳先生
- ・本校生徒
- ・前田康裕先生*
（ファシリテーター）

「探究学習に関するパネルディスカッション」

*『まんがで知る デジタルの学びー』ほか

(ご紹介)



甲斐 旭

かい あきら

熊本大学教育学部附属中学校 研究主任・英語科教諭

熊本県立大学文学部英語英米文学科 (学士)

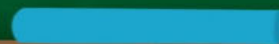
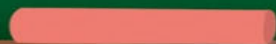
熊本市立錦ヶ丘中学校教諭

熊本市立芳野中学校教諭 を経て

令和3年4月より現職

論文：

「各学校段階（校種間）の接続におけるキャリア教育」（2021）



(ご紹介)



岩下嘉邦

いわした よしくに

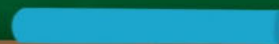
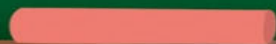
熊本大学教育学部附属中学校 国語科教諭

熊本大学大学院教育学研究科 (修士)

熊本市立井芹中学校教諭
熊本市立龍田中学校教諭 を経て
令和5年4月より現職

論文：

「中学生の論理的なコミュニケーション能力の育成に関する一考察」(2016) 「合意形成を意識した議論における中学生の論証の検討と調整のあり方に関する一考察」(2025) など



徹底的に 主体的・対話的(民主主義的) な学び



熊本大学教育学部附属中学校の「総合的な学習の時間」事例（中3生）

それではご覧ください

- 研究、著書、実践等の紹介
- 溝上との議論

令和7年度

熊本大学教育学部附属中学校

研究概要説明

令和7年11月20日（木）

研究主任（英語科） 甲斐 旭

kai@educ.kumamoto-u.ac.jp

01*研究の背景



今、求められている 資質・能力とは？

- ① 新たな価値を創造する力
- ② 対立やジレンマに対処する力
- ③ 責任ある行動をとる力

01*研究の背景

一人ひとりが初発の思考や行動を起こしたり、好奇心を深掘りする中で、**学びを主体的に調整し、自身の豊かな人生やより良い社会につなげていく『質の高い探究的な学び』の実現が不可欠**

論点整理(2025) p.61



02*令和7年度研究の概要【研究主題】

自他の幸福のために、自ら探究し、行動する生徒の育成

～総合的な学習の時間を中核とした探究的な学習の充実を通して～

自分を見つめ直し、クラスや学校、地域がみんなにとって過ごしやすいものにするために、課題意識を持って生活する中で、**現状から自らの力で問いや課題を見だし**、その解決のために必要なことを**対話などを通して問い続け、行動する**生徒

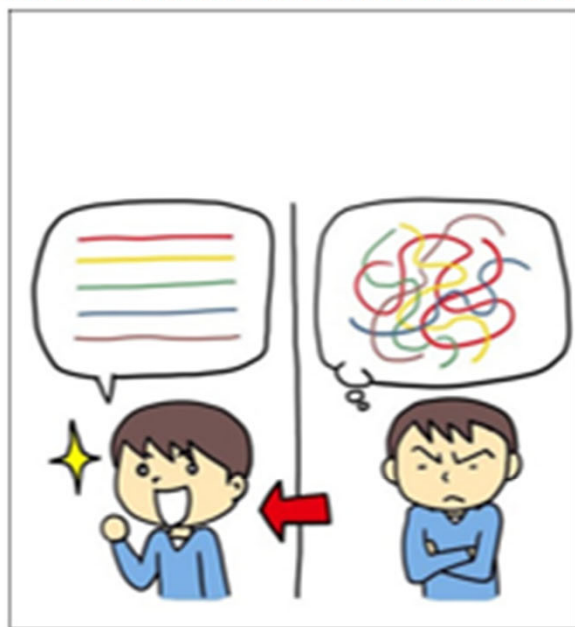
02*令和7年度研究の概要【研究主題】

自他の幸福のために、自ら探究し、行動する生徒の育成のために

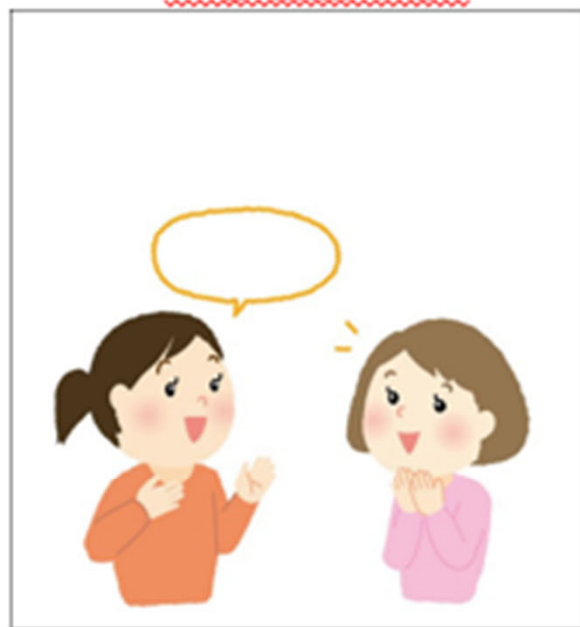
主体性



課題発見・解決力



対話力





02*令和7年度研究の概要【研究主題】

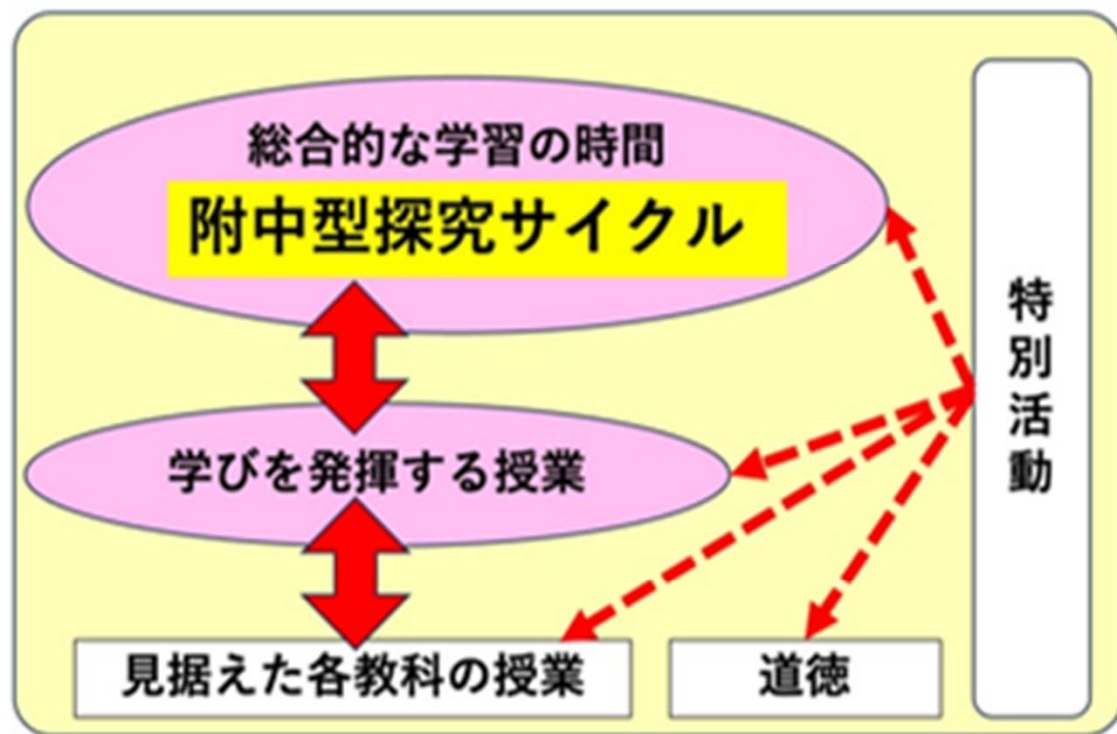
学びを発揮する生徒の姿

生徒主体の学びの中で、未知なる状況や正解のない問いに対して、対話をしつつ最適解を見いだしていくときに、**1人ひとりの生徒が見方・考え方を自在に働かせ、身につけてきた資質・能力を発揮していく姿**



02*令和7年度研究の概要

【学びを発揮する授業・見据えた授業】

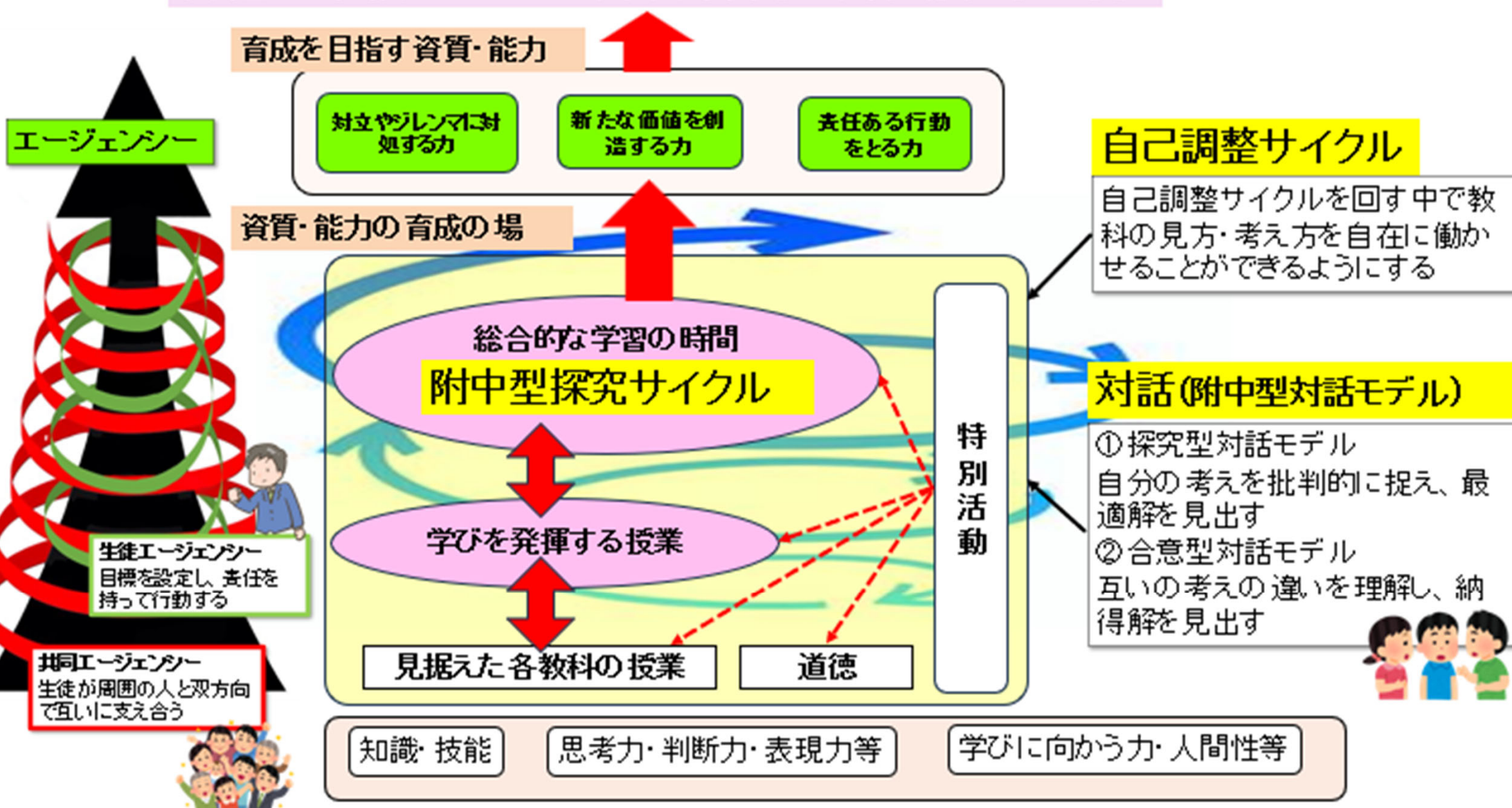


知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

自他の幸福のために、自ら探究し、行動する生徒



02*令和7年度研究の概要【エージェンシー】

生徒エージェンシー



変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力



02*令和7年度研究の概要【エージェンシー】

共同エージェンシー



生徒が、共有された目標に向かって邁進できるように支援する、保護者との、教師との、コミュニティとの、そして生徒同士との、双方向的な互いに支え合う関係



自他の幸福のために、自ら探究し、行動する生徒

育成を目指す資質・能力

対立やジレンマに対処する力

新たな価値を創造する力

責任ある行動をとる力

資質・能力の育成の場

総合的な学習の時間
附中型探究サイクル

学びを発揮する授業

見据えた各教科の授業

道徳

特別活動

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

自己調整サイクル

自己調整サイクルを回す中で教科の見方・考え方を自在に働かせることができるようにする

対話(附中型対話モデル)

- ① 探究型対話モデル
自分の考えを批判的に捉え、最適解を見出す
- ② 合意型対話モデル
互いの考えの違いを理解し、納得解を見出す

エージェンシー

生徒エージェンシー
目標を設定し、責任を持って行動する

共同エージェンシー
生徒が周囲の人と双方向で互いに支え合う



02*令和7年度研究の概要【研究の手立て】

学びを発揮する生徒の姿を実現するために：自己調整サイクル

☆生徒自身が学びの方向性を吟味し、自らの学習を調整していく

自己調整サイクルにおける学びの質の向上

教科の見方・考え方を自在に働かせるために…
自己調整サイクルを回す≠見方・考え方が自在に働く



02*令和7年度研究の概要【研究の手立て】



- ・ 前時までの学習内容を確認
- ・ 見通しを持たせる「どうすれば効果的に相手を押すことができるだろうか？」

見通し

振り返り

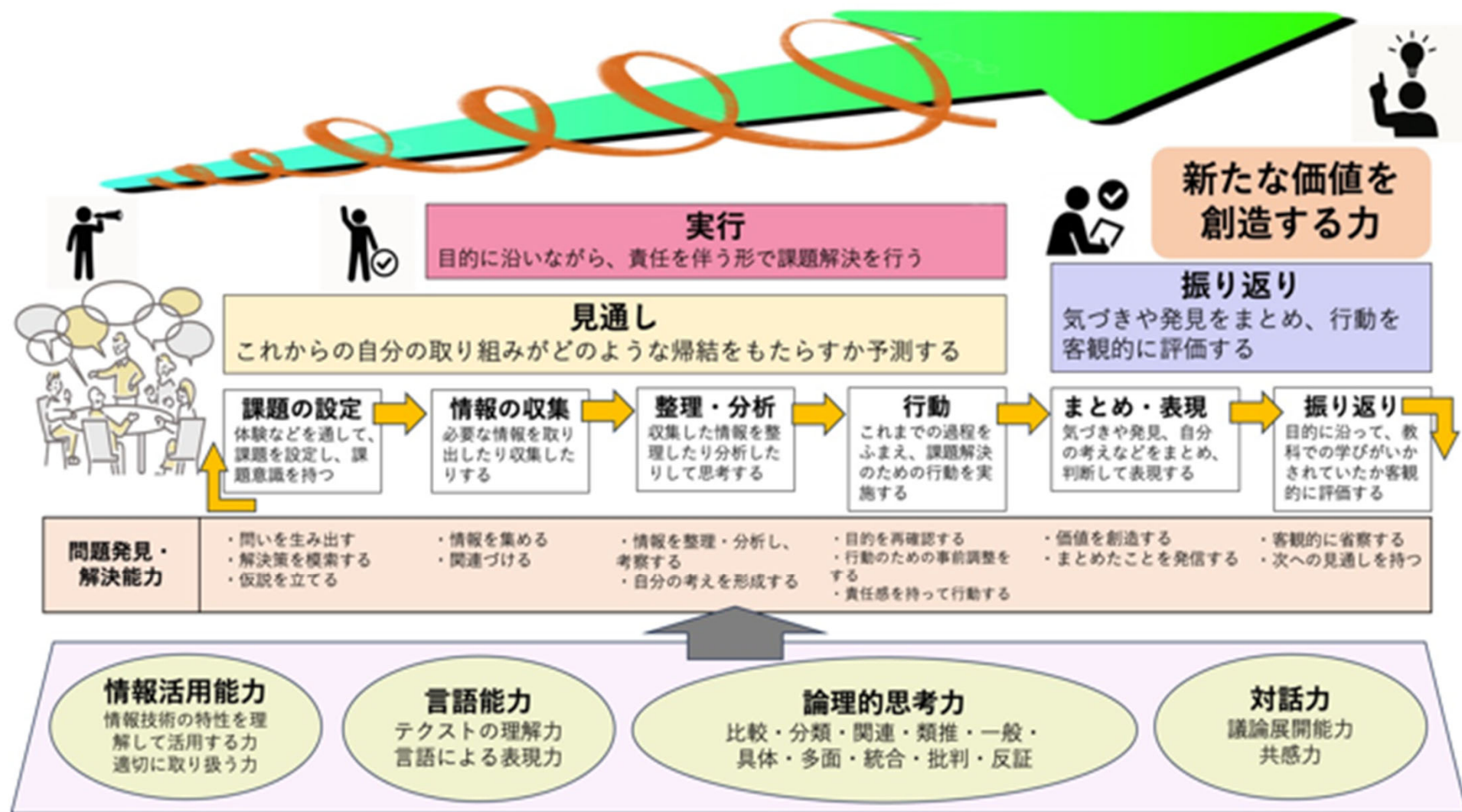
実行



- ・ 次時の授業に向けて体育シートに振り返りを蓄積する

- ・ 立てた見通しの検証
- ・ 試合をしながら見通しをふまえて気づいたことを指摘していく。
- ・ 試合後に気づきを共有し、次の試合で再検証する。

02*令和7年度研究の概要【総合的な学習の時間】



02*令和7年度研究の概要【総合的な学習の時間】

3年生の実践



02*令和7年度研究の概要【総合的な学習の時間】

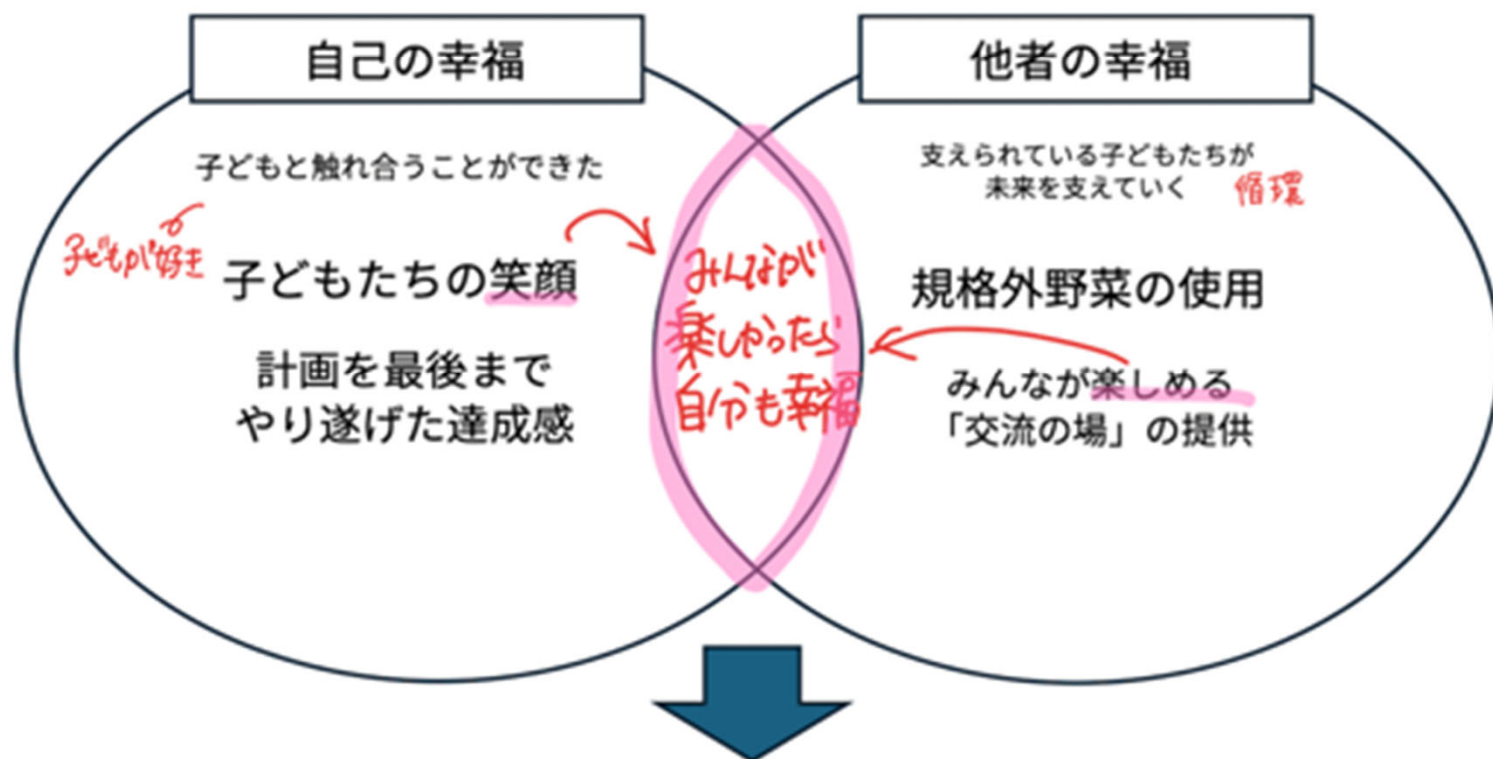
研究発表会当日「私たちの理想の生き方」とは



1. あなたにとって「探究」とは?(一言で)

自分の好きなことを自由に追究すること

2. 探究活動リフレクションマップ



<今後の見通し>

- 自分の好きなことに積極的に挑戦していきたい
- 今回の活動のような、自分の探究が繰り返して社会に循環していくような活動をしたい
- もっと多くの人に



3. 「私たちの理想の生き方」とは？

自分の好きなことを社会に活かそうとする

私の探究活動で言うと…

- 「子どもと関わるのが好き」→孤食問題に対してなにか行動したい
- 自分の好きなこと（自己の幸福）から始まったけど、いつのまにか社会への貢献（他者の幸福）につながっていた
 - もしも自分の興味のない探究テーマだったら、積極的に取り組めず、自分も他者も幸福にはなっていなかったと思う

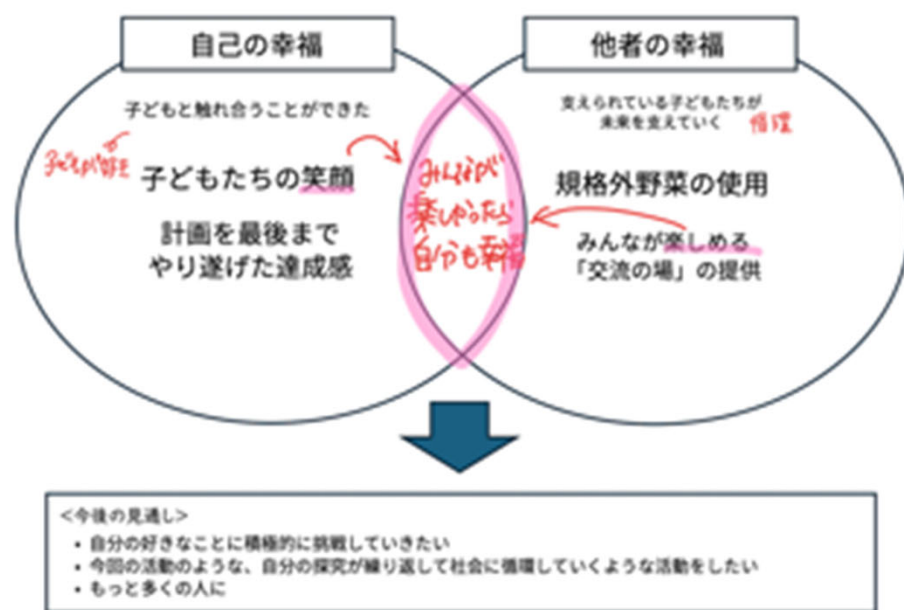
これからの進路、どんな仕事に就きたいか考えるときに大切にしたい
生き方だとおもった



1. あなたにとって「探究」とは？(一言で)

自分の好きなことを自由に追究すること

2. 探究活動リフレクションマップ



3. 「私たちの理想の生き方」とは？

自分の好きなことを社会に活かそうとする

私の探究活動で言うと…

「子どもと関わることが好き」→孤食問題に対してなにか行動したい

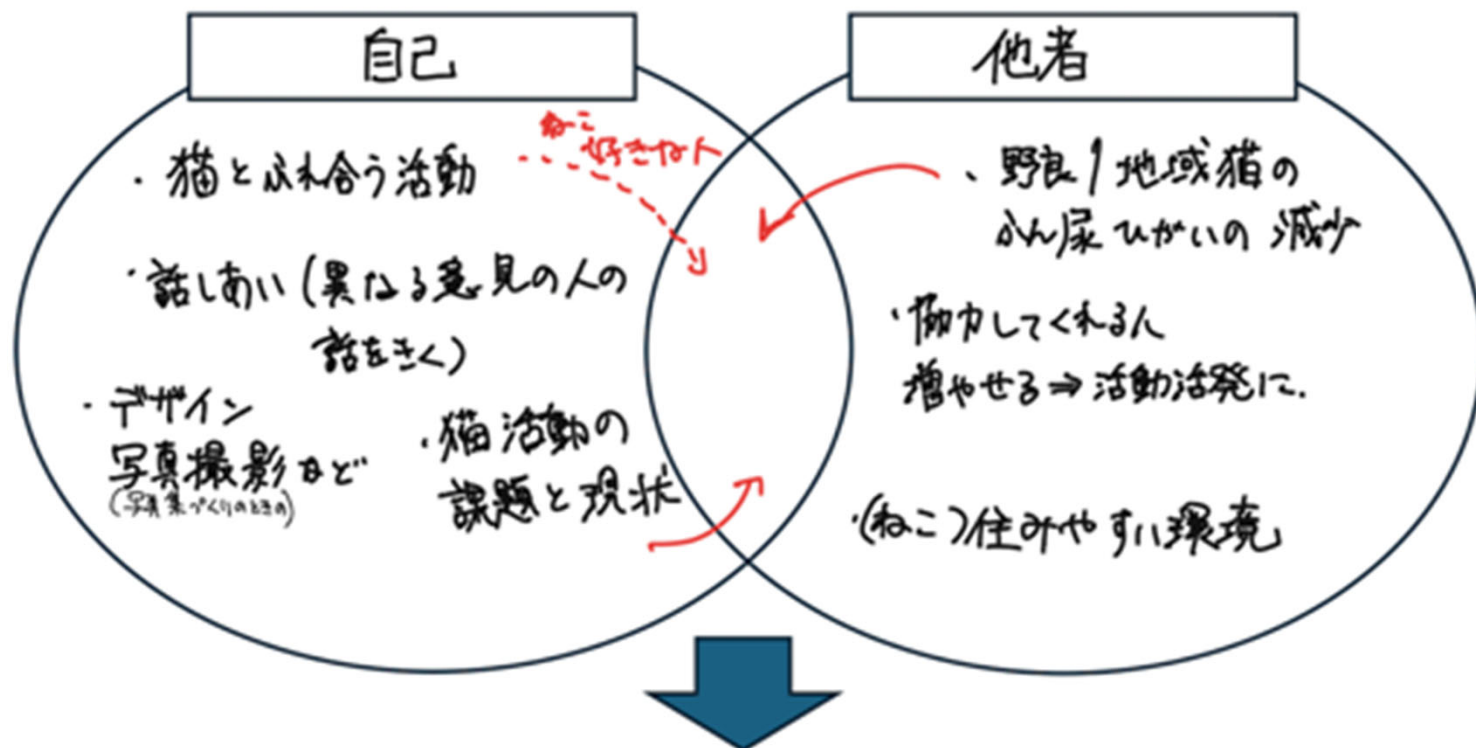
- 自分の好きなこと（自己の幸福）から始まったけど、いつのまにか社会への貢献（他者の幸福）につながっていた
- もしも自分の興味のない探究テーマだったら、積極的に取り組めず、自分も他者も幸福にはなっていなかったと思う

これからの進路、どんな仕事に就きたいか考えるときに大切にしたい生き方だとおもった

1. あなたにとって「探究」とは？(一言で)

自分の好きで社会をよりよくなる活動。

2. 探究活動リフレクションマップ



<今後の見通し>

(未来の)
もっと自分がしたいように活動, 自分のためにねこ部分を增强したい,
ex) ルール作りや話し合い活動の活発化, 特にファミリーへの向上, コミュニケーションかも...



3. 「私たちの理想の生き方

」とは？

自分の幸福
他者の幸福 → 達成
両方 → 幸せ

自分のやりたいことを明確にして、それと他者の幸福のバランスをとっていくこと。

自分の仕事が多くなりすぎたり、負担が増えすぎたりあい
てしまえば、自分がしたかったと思うことでも嫌いになっ
てしまおうし、そうなるとうまく生活することができなくな
っていつてしまう。自分の好きなことを好きなままにいる
ためにも、バランスをとるために、協力してくれる仲間を
作って支え合っていくことが重要になってくると考えた。



熊大附属中学校

対話力向上の取組

2025/11

溝上先生~~Youtube~~用資料



次期学習指導要領「論点整理」

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

補足イメージ1-①

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

① 深い学びの実装 (Excellence)

主体的・対話的で

主に第2,3,4,6章
(生きて働く「確かな知識」の習得、資質・能力育成の具体化・深化、「好き」意欲「得意」を伸ばす、情報活用能力の抜本的向上、個別最適な学び・協働的な学び等)

② 多様性の包摂 (Equity)

主に第3,7章
(調整授業時数制度、裁量的な時間、個別の児童生徒に係る教育課程の仕組み、デジタル学習基盤を活用した学習環境デザイン、個別最適な学び・協働的な学び等)

③ 実現可能性の確保 (Feasibility)

主に第5,7章
(授業時数の適正化・平準化、教科書の精選、構造化、裁量的な時間など様々な方策による教師・子供双方の「余白」の創出、カリキュラム・マネジメント等)

学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む



「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた

補足イメージ1-②

自らの人生を舵取りする力と 民主的で持続可能な社会の創り手 育成 (今後の検討イメージ)

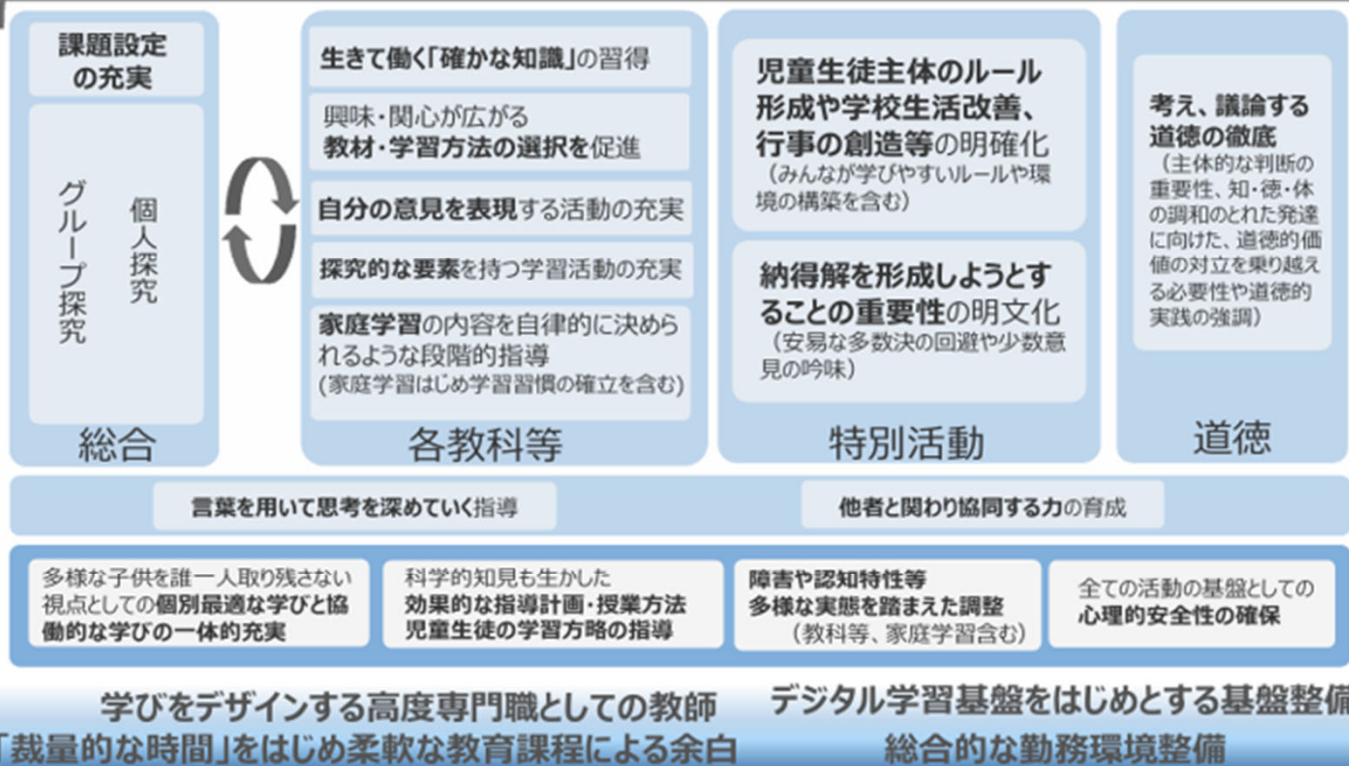
「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)

当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話、合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

好き・得意をベースとした
主体的な進路選択の促進

高
中
小
幼



※本イメージ図は、自らの人生を舵取りする力と民主的で持続可能な社会の創り手育成という今後の検討の一部を資料化したものであり、学習指導要領の改訂に関わる全ての要素を網羅する性質のものではない

附属中の「対話」の捉え方

多田孝志 (2017) 『グローバル時代の対話型授業の研究』によると…

「自己および多様な他者や様々な対象と語り合い、差異を生かし、新たな智慧や価値・解決策などを共に創り、その過程で創造的な関係を構築していくための言語・非言語による、継続・発展・深化する表現活動」



グローバル時代の
対話型授業の研究

実践のための12の要件

多田孝志

東信堂

本校の生徒に話している定義

対話とは…

- 自分、他者、対象と語り合うこと
- 共に新たな考えを創ること
- 他者と良い関係を構築していくこと

Mercer(1996)の示す「会話の3類型」

論争的会話	意見の決裂と個人的な意思決定によって特徴づけられる。情報が共有される事や、建設的な批判や提案がなされる事はほとんどない。主張と反論によって構成される顕著に短いやりとり。
累積的会話	会話の参加者は積極的にお互いが言ったことを積み重ねていくが、それは批判的なものではない。参加者は蓄積によって共通の理解を構成しようとして会話を行う。繰り返すと、確認と、緻密化によって特徴づけられる。
探索的会話	会話の参加者が批判的で、しかし建設的にお互いの考えに関わり合っているときに生じる。発言や対案は共同で検討を行うために提示される。彼らは、反論を述べられる事も、その反論に対して、さらに反論を受けることもあるだろうが、その反論は十分な根拠に基づくものであるし、代替の仮説も提示される。そして、進歩は最終的な全員の賛同によって生じる。

実は、本校でも数年前までは「ディベート」が対話指導の中心だった...

~~論争~~

~~安易同意~~

対話

※邦訳は松尾他(2005)より引用

対立には、「よい(健全な)対立」と「不健全な対立」がある。(アマンダ・リプリー, 2024)

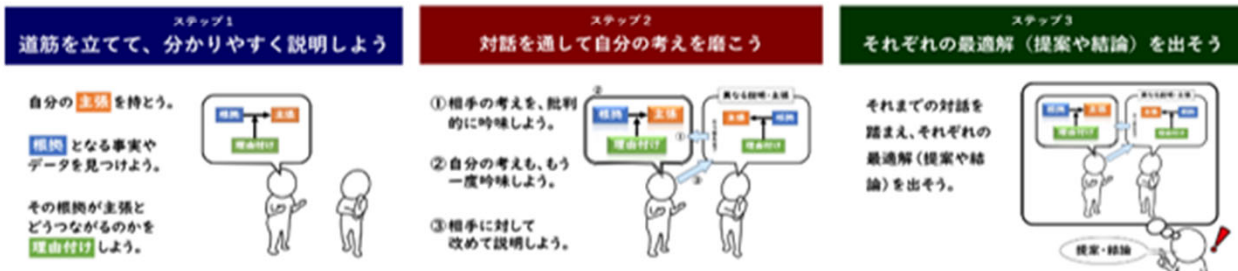
- よい対立は、わたしたちがよりよい人間となれるよう背中を押してくれる。許すこととは違う。屈することとも無縁だ。ストレスが溜まったり、激しくやり合ったりすることはあっても、わたしたちの人としての尊厳が損なわれることはない。社会のあり方を大幅に変えたり、地殻変動をもたらしたりする可能性がある。それでいて、下手な模倣に陥ることもない。そしてわたしたちはつねに現実を受け入れていく。いつでもどんなことに答えられる人間などいないし、わたしたちはみんなつながっている。自らを守り、互いを理解し合い、向上していくために欠かせないもの、それが健全な対立だ。しかも昨今は、その必要性がますます高まってきている。
- 対して、「善と悪」「わたしたちと彼ら」といった、相反する関係が明確になったときに起こるのが**不健全な対立**だ。



こういった**不健全な対立 (=論争)**に陥らないために…

附中型対話モデル

探究型対話モデル



合意型対話モデル



→「真理探究」に使用

- 例) 人吉盆地はどのように作られたのか?
- 例) 相撲でより上手く相手を押すには?
- 例) 「本当の友情」って何だろう?

【主な活用場面】

・教科の学習 ・道徳 ・総合

→「問題解決」に使用

- 例) 学級目標・学年目標は何にする?
- 例) 校則をどう変える?
- 例) 委員会の取り組みとして何を行う?

【主な活用場面】

・学級活動 ・委員会活動

→松下(2021)『対話型論証による学びのデザイン』で示されている「対話型論証モデル」をベースとし、**苫野先生が様々な著書で言及されている「共通了解志向型対話」(超ディベート)**を、学校教育の中で実現するために作成したモデル。 ※「論点整理」でいう「対話」と「合意」にあたる?

対話の内容に応じて、生徒の参加態度は大きく変わる。

交流 真理追求 価値判断

→皆で話し合っ、一致した結論を出すことを目指すが、その後の行動が求められるわけではない状況
(互いの考えを深めることが目的)

課題解決 問題解決

→皆で話し合った結果、一致した結論による行動が求められる状況
(合意を形成することが目的)

「ステークホルダー(利害関係者)」が存在する

※長谷・重内(2021)「小中学国語教科書所収「話し合い」教材に関する一考察」の分類をもとにした区分。

探究型

ステップ1 道筋を立てて、分かりやすく説明しよう

自分の **主張** を持とう。

根拠 となる事実やデータを見つけよう。

その根拠が主張とどうつながるのかを **理由付け** しよう。



三角ロジックをもとに考えを持ち、発表する

ステップ2 対話を通して自分の考えを磨こう

- ①相手の考えを、批判的に吟味しよう。
- ②自分の考えも、もう一度吟味しよう。
- ③相手に対して改めて説明しよう。



互いの考えを吟味しあう
(質問や反論を出し合う)

ステップ3 それぞれの最適解（提案や結論）を出そう

それまでの対話を踏まえ、それぞれの最適解（提案や結論）を出そう。



それまでの話し合いを踏まえて、結論を出す

「ステップ2」が重要ということを全職員で共通理解。

- ×《異論受信型》…単に互いの考えを聞くだけの活動
- 《討論型》…互いの考えを吟味し、深め合う活動

※これらの用語は、北川雅浩（2024）『小学校国語科における討論指導に関する研究』より

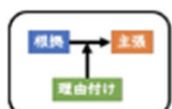
合意型

ステップ1 道筋を立てて、分かりやすく説明しよう

自分の**主張**を持とう。

根拠となる事実やデータを見つけよう。

その根拠が主張とどうつながるのかを**理由付け**しよう。

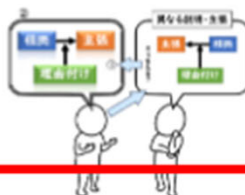


ステップ2 対話を通して自分の考えを磨こう

①相手の考えを、批判的に吟味しよう。

②自分の考えも、もう一度吟味しよう。

③互いの考えを、分類・統合して整理しよう。



①	A案	B案	C案	B+C案
実用性	○	○	○	○
安全性	▲	○	○	○
経済性	×	○	○	○
環境性	○	▲	×	▲

ステップ3 皆が納得できる合意（提案や結論）を作ろう

①目的を意識して、どのような観点・基準で結論を出すか話し合おう。

	A案	B案	C案	B+C案	目的
実用性	○	○	○	○	○
安全性	▲	○	○	○	○
経済性	×	○	○	○	○
環境性	○	▲	×	▲	○

②皆が納得できる合意（提案や結論）を作ろう。



三角ロジックをもとに考えを持ち、発表する

互いの考えを吟味しあう（質問や反論を出し合う）

それまでの話し合いを踏まえて、結論を出す

合意形成を目指した対話においては、

- ①「結論を出すための観点や視点」を明確にして議論を整理した上で、
- ②「話し合いの目的」を意識させることによって、結論に対する参加者相互の「納得感」が向上する。

①長谷・重内（2018）『合意形成能力を育む「話し合い」指導』および、

②岩下・北川（2025）「合意形成を意識した議論における中学生の論証の相互検討と調整のあり方に関する一考察」より

全校国語

この時間は全クラス国語の授業。話し合いは各クラスで行い、国語科がTV放送で全体指示を行う。

令和6年度 時間割 (12月1日~12月7日) 第 36 週 ver.3

職員用	12月2日						12月3日						12月4日					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
1年教育相談(6)	2年教育相談(3)						2年教育相談(4)						2年教育相談(5)					
2年教育相談(2)・2年解団式																		
3年通路相談(6)																		
部活	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	PTA役員会・指名委員会(3)																	
	AM年休 船山																	
	全校国語																	
森田 国	1-4	1-3					1-4						1-2	1-1	1-1			
田中 国								2-1	2-4				2-3	2-2				
岩下 国	3-2							3-3	3-4				3-2		3-1	3-1		
鎌ヶ江 社	1-2		1-1	1-4														
立川 数			2-3				2-2	2-4						2-3	2-1	2-2		
山本 社	3-4		3-3	3-1			3-4		3-2	3-3			3-1	3-2	3-4			
河本 数	1-4	1-2			1-3		1-4	1-1	1-3	1-2			1-1	1-2	1-3			
船山 数			2-4	2-1			2-4	2-3	特活									
末藤 数	3-3	3-1	3-2				3-3	3-2	3-1	3-4			3-4		3-3	3-3		
赤星 理	1-3		1-2				1-1	1-4					1-3					
井上 理	2-3	2-2		2-4			2-3	2-2	2-1				生指	2-4	2-2	2-1		
富永 理	3-1	3-2	3-4				3-2	3-4	3-3	3-1			3-3	3-1		3-1		
米満 音			1-4				1-2	1-3	3-1				2-4	2-1		2-2		
古閑 美	3-4	3-1	3-3				2-1	2-2	1-3	特活			1-4	1-1	1-2			
長瀬 体	2-1	2-3	1-3	1-1			3-1		1-1	1-3			生指			1-1		
福田 体	2-2	2-4	1-4	1-2					1-2	1-4				3-3				
金子 体							3-2							3-4				
内田 技	1-1	1-1					3-3	1-2	1-2				1-4	1-4	3-1			
上國科 家		2-1	2-2	2-3			2-3			特活			2-2		2-4	1-1		
大野 英	1-2	1-3	1-1				1-3		1-1	1-4				1-3		1-1		
甲斐 英	2-4		2-1	2-2			2-4	2-1	2-3	2-2			2-1		2-3	2-2		
財部 英	3-3	3-2	3-4				3-1		3-4				生指	3-3	3-2			
松島 理																		

1-1	技	技	社	英	体	理	数	英	体	国	数	英	国	理	国	理	国	理	国
1-2	社	英	数	理	体	音	技	技	体	数	国	数	美	技	技	国	数	理	社
1-3	理	国	英	体	数	英	音	数	美	数	理	英	体	家	理	家	理	家	理
1-4	国	数	音	体	社	数	国	理	英	体	数	理	英	家	理	家	理	家	理
2-1	総	体	家	英	数	社	理	英	国	理	数	理	英	家	理	家	理	家	理
2-2	総	体	理	家	英	数	社	理	英	国	理	数	理	家	理	家	理	家	理
2-3	総	理	体	社	家	数	理	英	国	理	数	理	英	家	理	家	理	家	理
2-4	総	理	体	社	家	数	理	英	国	理	数	理	英	家	理	家	理	家	理
3-1	理	数	英	社	数	理	英	体	音	数	理	英	国	社	理	国	社	理	国
3-2	国	理	英	社	数	理	英	体	数	社	技	理	国	社	理	国	社	理	国
3-3	数	英	社	数	理	技	理	体	数	国	理	社	理	体	数	理	国	社	理
3-4	社	英	理	英	理	社	理	理	英	国	数	数	理	体	社	理	国	社	理

【昨年度】

第1回：10月

「ファシリテーショントレーニング」(探究型)

第2回：11月

「私服ウィークについて」(合意型)

第3回：12月

「ずらし下校について」(合意型)

【今年度】

第1回：6月12日

「ファシリテーショントレーニング」(探究型)

第2回：6月16日

「眉について」(合意型)

第3回：10月3日

「理想の生徒会について」(探究型)

★異学年交流

全校国語の実施

【目的】
新生徒会執行部に、全校生徒の思いや考えを届ける。

A 「理想の学校」ってどういう学校だろう？

B 新しい生徒会執行部に対して期待する、「理想のリーダー」ってどういうものだろう？



→ 3年生がファシリテーターとなり、異学年グループで話し合い。

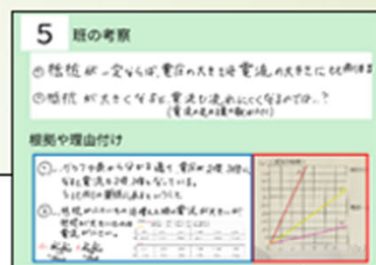
子どもたちが普段から対話を行っている集団は、基本的に同年齢から構成されることが多く、「あまり知らない人」と「うまくやっていくための対話」が不足しているという課題が指摘されている（中條,2025）ため。

今年度の各教科の取り組み

【社会科】
「戦争とは何か？」



【理科】
「電気を消費するとは
どういうことなのか？」



【道徳】
「伝統を継承するとは
どういうことなのか？」

ひご ぞうがん
肥後象嵌



かたど は
象る 嵌める

全校国語の実施

全校国語②



合意型の対話に挑戦しよう！

【タイムテーブル】

- 10:35 趣旨説明
10:50 ワークシート記入
11:05 クラスでの話し合い開始
(それぞれのタイミングで間に休憩)
12:05 話し合い終了
振り返りの記入



【議題】

「眉を剃ったり、揃えたりしない。」
という校則について

【目的】

「校則の意義」に照らし合わせて、附属
中学校のルールを見直していくこと。

「ルールメイキング」とは？

ルールメイキングは、生徒が中心となり教員や関係者と対話しながら校則・ルールを見直していく取り組みです。立場や意見の違う人たちと、対話から納得解をつくるプロセスを大切にしています。

=合意形成



本校には、「ルールメイカー」と呼ばれる組織が存在する。そのリーダーが提案理由を説明し、対話に進んでいく。

「校則の意義」は

- ①生徒全員が安全・安心な学校生活を送ることができるようにすること。
- ②掲示してある「綱領」や「望ましい附中生」の内容が実現される学校にすること。

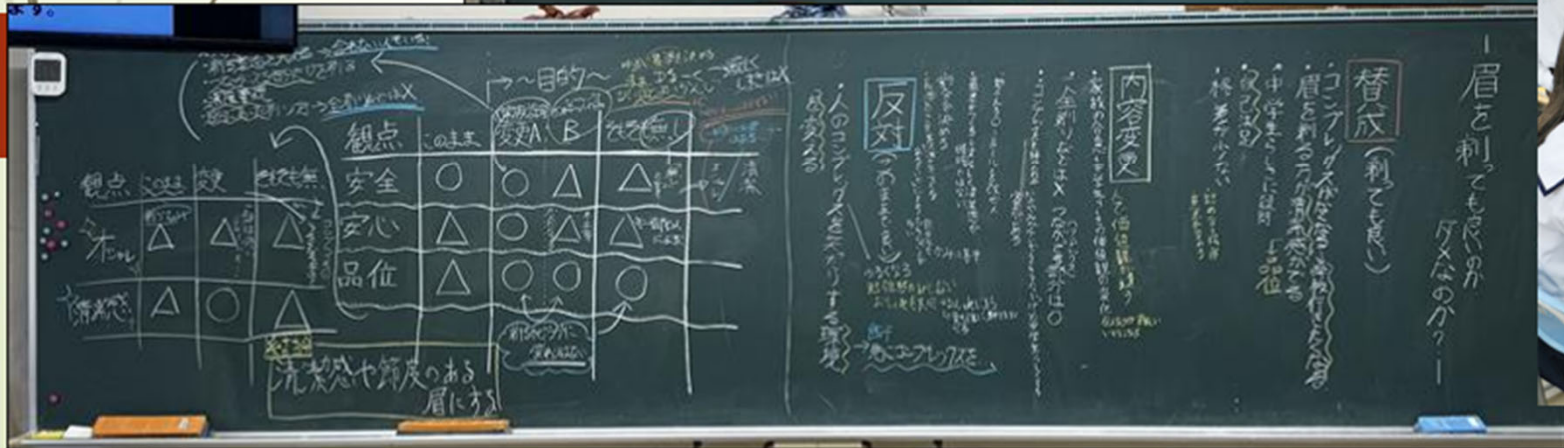
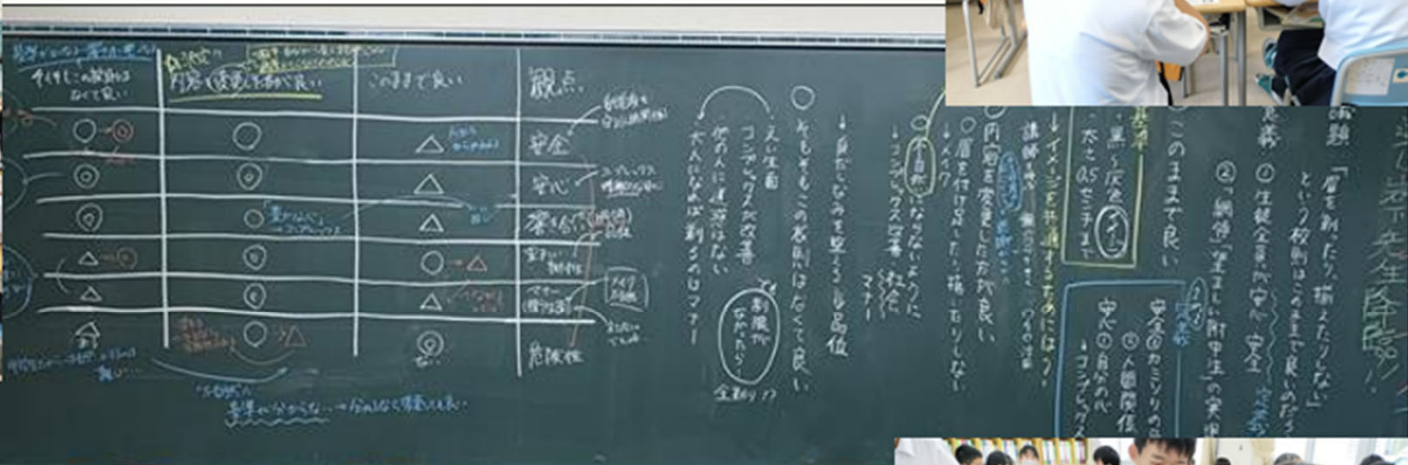
合意型対話モデル



時間は60分間（休憩含めて）。学習リーダーさん、よろしくをお願いします。

全校国語の実施

各クラス**学習リーダー**が**司会・板書**を行い、話し合いを進めていく。



「合意型」の対話活動を取り入れていくためには、

①「目的を明確にする」

②「決定権を生徒たちに委ねる」という前提が必要となる。

より高いレベルでの参画

見せかけの参画



- 8 生徒主導
大人とのパートナーシップの下での意思決定。
- 7 生徒主導
生徒が主導し、自らの方向性を決めている。
- 6 大人主導
大人が主導するが生徒も意思決定にかかわっている。
- 5 相談・情報共有
大人が意思決定するが、生徒も必要な相談を受けたり情報を与えたりしている。
- 4 付与・情報共有
大人が生徒に対して仕事を割り当てる。ただし、生徒がプロジェクトに対してどのように、また、なぜかかわっているのかについては、情報が与えられている。

- 3 見せかけの参画
自分たちの活動について、生徒は全くあるいはほとんど影響を与えることができない。
- 2 装飾
大人が主導して実行することを、生徒が助ける。
- 1 操作
大人が自らのプロジェクトをサポートするために生徒を利用し、あたかも生徒の発案であるかのように見せかけている。



本校では、生徒と教師と一緒に校内研修や研究授業の事後研を行っている。

→「生徒と教師のパートナーシップ」が重要である。

学校生活での活用

【生徒総会】 「人任せを改善するための具体的な 行動目標を決めよう」

【学校行事】 「今年の体育大会の競技 を決めよう」

体育大会テーマおよびコンセプト

体育大会テーマ：一意専心
テーマに込めた実行委員の思い：自律

- ①一致団結すること：自分を律することで周り高めよう
- ②自主的に行動する：自分から広げていく。周りに自分から関わるのが大切
- ③自制すること：自分の行動に責任を持つ。周囲の状況に合わせた臨機応変な行動・他者意識

☆附中生みんなが体育大会を私たちは体育大会テーマを中心として
合意形成しました。
→体育大会が終わってからも体育大会で培ったことを日常生活
で続けられることができるよう意識化



綱引き	集団行動	項目
○	◎	一致団結する
△	○	自律 (責任感)
△	○	自主的な行動の必 要性
○	△	練習時間
△	○	精神的な個人の成 長
○	△	観覧者からの見や すさ
○	◎	協調性
○	○	観覧者から一致団結 の伝わりやすさ



「人任せ」解 決の取り組み 合意形成表	視点・判断基準					
	個人	態度	計測可能	他者貢献	課活動	継続性
校中 スミレ	◎	○	△	◎	×	○
校長の 意見	○	○	◎	○	×	△
副校長の 意見	◎	◎	○	○	△	○
各学年 リーダー	◎	◎	△	◎	×	◎

↑ 取組 ↑ 伝わりやすさ